

そよみがぜたより

2008
11月号



すっかり気温も下がり、街も冬の装いになりましたね。当院でも来月のクリスマスに向けての飾りつけを少ししてみました。いかがでしょうか？

紅葉が寂しくなった外の景色も、飾りつけをした事で見え目も明るくなり、気分も明るくなりますね。

日が落ちるのが早くない、暗くなるのが早くても、イルミネーションがあるだけで気分がグッと変わるものです。

外を通った際に、わずかですが当院の飾りつけで少しでも心になにか温かいものが灯るといいな、と思います。

また、寒い季節を体調も壊しがちです。暖かい格好で、温かいものを沢山食べ、心身ともに健康でいられるようお気をつけ下さい。

そして最近、食の安全や暗いニュースなどで私たちの日常生活の中でも不安になるような問題がとて多い気がします。

様々な問題があり、それを信用していいのかわからない不安もあります。毎日笑顔で生活していきたいものですね。

一言メモ

入れ歯洗浄剤「ピカ」



毎日使える酸素タイプと、週に1回の活性酸素タイプの2種類入り！

酸素タイプ…

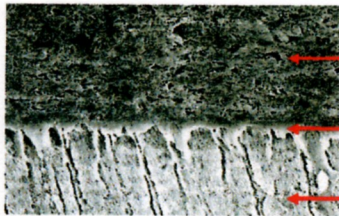
歯垢(プラーク)のもととなるカンジダ菌を強力に溶解する特殊酵素で、入れ歯とお口の中を健康に。

活性酸素タイプ…

タバコのヤニや、黄ばみなど染み付いた頑固な汚れも週1回のお手入れでキレイに洗浄。

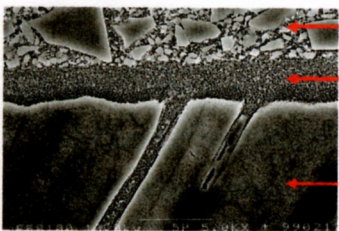
コップに水とピカを入れるだけ!!

酸素タイプ28回分×活性酸素タイプ4回分



合成樹脂
接着剤
エナメル質

歯(エナメル質)と合成樹脂が接着した部分の電子顕微鏡での断面写真(拡大写真)



合成樹脂
接着剤
象牙質

歯(象牙質)と合成樹脂が接着した部分の電子顕微鏡での断面写真(拡大写真)

白い詰め物と歯の接着剤

前回はアクリル合成樹脂を用いた、審美的なむし歯治療の歯科材料についてまとめました。今回はこの材料がどのように歯とくっつくかという「接着剤」についてまとめたいと思います。

木工用ボンドや瞬間接着剤など、私たちが日常で使う接着剤は、水分のないもの同士をくっつけるのが通常です。

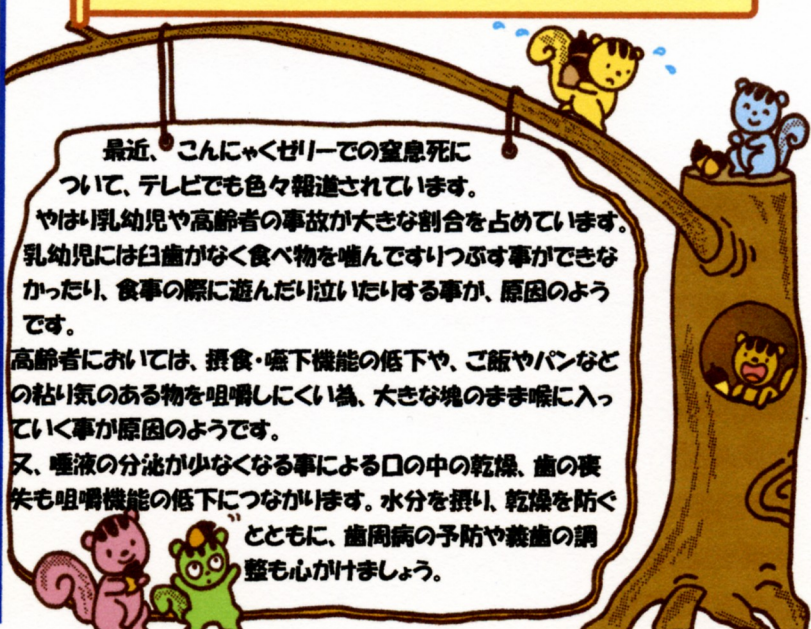
しかし、歯は水分を含みます。特に象牙質部分は約20%程度の水分を含みます。では、どうして接着できるのでしょうか？

多くの研究者により、むし歯治療で使う接着剤などには「水に溶ける樹脂(油)や」水分に馴染みやすい樹脂が合成されるようになりました。これらの成分の一部はその他の歯科分野、医科の手術後の縫合用接着剤「リハタクト」にも用いられています。

このような接着剤の進歩によって、むし歯の治療は、悪いところだけの削除が可能となることも、局所麻酔の使用が少なくなったとも言われています。

左の図は、歯と歯科用合成樹脂が接着している断面像を示します。

今月の豆知識!? 食べ物による窒息



最近、ごんぱくせーでの窒息死について、テレビでも色々報道されています。やはり乳幼児や高齢者の事故が大きな割合を占めています。乳幼児には臼歯がなく食べ物を噛んですりつぶす事ができなかったり、食事の際に遊んだり泣いたりする事が、原因のようです。

高齢者においては、摂食・嚥下機能の低下や、ご飯やパンなどの粘り気のある物を咀嚼しにくい為、大きな塊のまま喉に入っていく事が原因のようです。

又、唾液の分泌が少なくなる事による口の中の乾燥、歯の喪失も咀嚼機能の低下につながります。水分を摂り、乾燥を防ぐとともに、歯周病の予防や義歯の調整も心がけましょう。

院長のS

今回は、歯科用合成樹脂(白い歯の詰め物)と歯の接着剤の話をもとめました。前途に記した電子顕微鏡の写真でもわかるように歯科用合成樹脂とエナメル質あるいは象牙質が接着剤でしっかりとくっついて(接着して)います。この分野で日本は、世界の最先端の技術を有していると言っても過言でないでしょう。この技術はここ20年間で急激に成長しております。

この技術開発によって、むし歯の治療は大きく変化し、罹患部位のみの削除にとどめるだけでなく、局所麻酔の使用の減少、さらには治療時間を短縮したとも言われています。

近年、医科分野でもオーバースージー(罹患部位を大きく切除すること)を避け、罹患部位の必要最小限の除去が謳われていますが、歯科においても例外ではなく、その技術の開発は日進月歩で進んでいます。将来は、部分的な切除をしても歯が自然とできる世の中になるのかもしれない。

次回は、むし歯の審美的修復の臨床症例についてお話しします。お楽しみに!